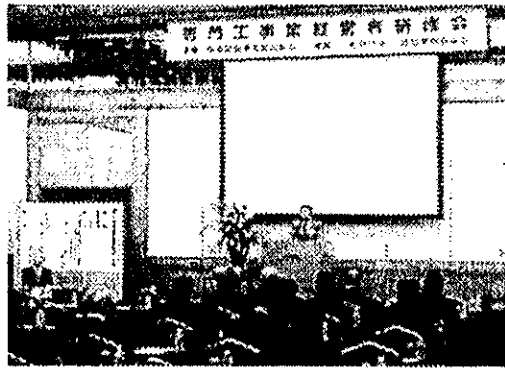


中小の経営戦略解説  
 佐栄建設事業協組  
 専門工事業研修会



佐藤工業の中核的な協力業者で構成する佐栄建

設事業協同組合（廣井秀賢理事長）は19日、東京都墨田区の東武ホテルバント東京で「専門工事業経営者研修会」を開いた。写真。建設業振興基金が後援し、約70人が参加。中小企業の経営戦略やコミュニケーションを専門分野にする講師が、課題や対応策などを解説した。

冒頭、廣井理事長は「私たちは佐藤工業と共存共栄していくからこそ甘えは許されない。常に切磋琢磨（せつさつたくま）し、技術力を高め、良いものをつくっていく。長い伝統や他社に負けないものを基にして、新たなものに挑戦することを心掛けてほしい」とあいさつした。

佐藤工業の宮本雅文社長は「経営方針に『現場主義の徹底』を掲げている。現場は、利益の源泉であり、営業の出発点、技術の宝庫、人材育成の適所だ。現場の安全や環境は何にもまして重要で

あり、関係部署に対策の徹底を指示しているの  
 で、皆さまのご協力をお願いしたい」と呼び掛けた。

研修会では、中小企業診断士で1級建築士の藤原一夫氏が「中小建設業経営戦略としての現場の原価管理の重要性および後継者問題について」、関係性開発協会理事の川添香、木越首善、前田典子の3氏が「世代をつなぐコミュニケーション」をテーマにそれぞれ講演した。